

令和4年度 馬場小学校「豊かな心の育成」推進プラン

中期学校経営方針「豊かな心」達成目標

- 一人ひとりが、自分だけでなく、周りとのかかわりを大切にしながら共に生きようとする子どもを育てる。
- ・教科の楽しさや知的好奇心の幅を広げ、主体的に学ぼうとする子どもを育てる。
- ・自己肯定感を高め、自分以外の人や地域とのかかわりを大事にしようとする子どもを育てる。

児童の実態（「豊かな心の育成」にかかわる課題）

自己肯定感や自己有用感が低い児童が多いという課題があり、Y-P アセスメントやアンケート調査から児童一人ひとりの見取り、職員間で児童理解のための情報交換など、児童理解の取組を充実させようとしている。職員は、常に危機管理意識をもって、児童一人ひとりを理解し、支援することで自尊感情や自己肯定感は高くなっており、児童の問題行動も減少してきている。そして、馬場小スタンダードに則り、職員全員で一貫性のある指導を行い、同じ方向性で指導にあたることを意識的に取り組んでいる。

今後は、児童自身が自分自身の良さ、友だちの良さを認め合う気持ちをもっと育てる必要がある。授業を通した「わくわくづくりと他者理解」を含め、馬場小の良さを引き継いでいく必要がある。

「豊かな心の育成」に関する指導の目標・指針

- 自己肯定感を育むために、馬場小スタンダードを全職員で共有し、一貫性のある指導を行う。
- 児童自身の長所に気付かせ、相互に長所を認め合う場を大切にする。
- ペアフレンド活動や縦割り活動等による異学年交流を行う。
- 人権教育を通して、人の心の痛みに気付く指導を行う。

(1)「授業」のつながり

「各教科における体験活動の充実」

- 校内、校外の自然環境を活用した体験活動を生活科や理科、総合的な学習の時間を中心とした教育活動で推進し、命を大切に作る心を育てます。
- 自然や命について考える機会をもてるようにします。
- 豊かな感性・情操を育むため、子どもたちの思いを発展させる機会をつくったり、授業を通して自己表現の場を作り、わくわくできる馬場の子どもたちにあった教育活動をつくったりします。

「道徳教育」

- 実生活を踏まえた授業が展開できるような教材を研究し、ふりかえりを重視した道徳の授業を進めます。
- 新型コロナウイルスに関連する道徳の授業を作成し、子どもたちの心のケアも視野に入れて活動を進めます。

(2) 「人」のつながり

「人権教育」

- Y-Pアセスメントやアンケート調査等を参考に児童の実態把握を行い、学習活動を進めていくなかで、自己肯定感や自己有用感を大切にすることを育てます。
- 子どもの社会的スキルを育成する横浜独自の「人とのつながりを作る指導プログラム」を参考に、人との出会いを通して体験的に学べる学習活動を設定できるようにします。
- 朝会や人権週間で、全校一斉に人権について考える機会をもつようにします。
- 特別な支援が必要な児童に対して「個別の支援計画」を作成し、一人ひとりに応じた指導を考えます。

「特別支援教育」

- 個別支援級児童の交流級での活動の充実を図ります。
- 職員の研修を行うとともに、パーソナルスペースや教室環境の整備、児童への配慮を行います。
- 情報交換を行い、全職員で子どもたちを共通の価値観で見守っていくようにします。

(3) 「学びの場」のつながり

「幼保小連携」

- 幼保小の連携・接続を意識したスタートカリキュラムを、生活科を中心として作成し、子どもが安心して学校生活を送れるようにします。
- 近隣の園と連絡を取り合い、幼稚園、保育園の子どもたちと小学生の交流を図ります。

「小中連携」

- 上の宮中学校との連携として、中学2年生の職業体験活動を受け入れ、低学年の子どもたちとの交流を図ります。